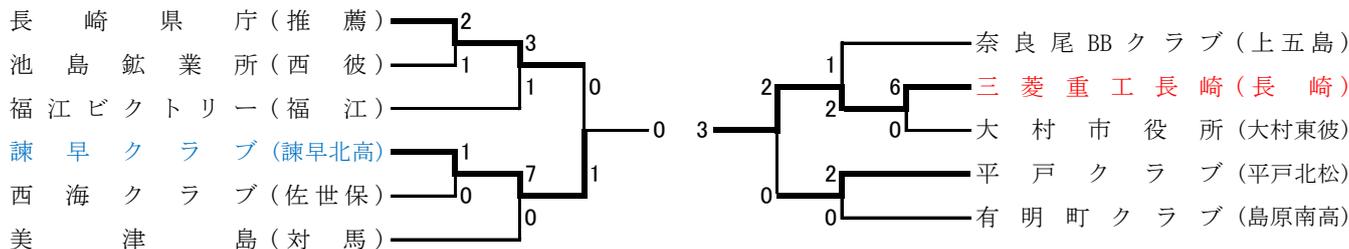


# 三菱重工が6連覇後に味わう美酒は3年ぶり7度目

## 第25回長崎県軟式野球選手権大会

会期 昭和50年10月17日(金)～19日(日)  
会場 長崎市営大橋球場



第25回県選手権大会は10月17日、午前10時からの開会式に続き大橋球場で一回戦3試合が行なわれた。午前中は時折小雨のパラつくあいにくの天気だったが、午後からは雨もあがってグラウンドコンディションもまずまず。第1試合は前年度優勝の長崎県庁が延長戦もつれ込む接戦の末池島鋳業所を2-1で下した。第

2試合も1点を争う好ゲーム。少ないチャンスをつかんだ諫早クラブがベテラン宇戸を盛り立てて若い西海クラブを振り切った。第3試合は三菱重工長崎が大村市役所の西投手に岩崎の本塁打を含む9長短打を浴びせて圧倒。守っても1安打に宇封じて快勝した。  
(昭和50年10月18日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

## 山口が決勝打 池島 出口の本塁打実らず = 延長9回 =

【池島】打安点

①尾上	4	0	0
⑧菜切	4	0	0
⑥出口	4	1	1
②大始良	4	0	0
④高見	3	0	0
⑦花田	3	0	0
⑨山本	3	0	0
③福浦	3	0	0
⑤松崎	2	0	0
30 1 1			

【一回戦】 (延長9回) 振球犠盗失残

池島鋳業所	000 000 100	1	6	1	0	0	2	3	1時間53分
長崎県庁	100 000 001x	2	7	5	0	3	2	6	【本】出口

【県庁】打安点

⑤井口	3	1	0
⑥浦	4	0	0
⑧橋口	4	0	0
④3芦塚	3	1	1
③高比良	2	0	0
3宿輪	0	0	0
⑦原	3	0	0
①山口	4	1	1
②松本	3	0	0
②田中	3	0	0
29 3 2			

【評】1点をめぐる緊迫した攻防で延長戦にもつれ込んだ。1-1で延長九回の県庁は一死後連続四球と三ゴロで二三塁に、前打席でもよい当たりの中直を放っている山口は3球目を見事に中前へ弾き返して前年優勝の地力を見せてサヨナラ勝ちした。  
初回到敵失から芦塚の中前適時打で1点先取した県庁を、池島が追うが左腕・山口のカーブにタイミングが合わず、県庁の堅守にも阻まれて六回までノーヒット。1点差のまま終るかと思われた最終の七回に出口がスローカーブを狙い打つと打球はライナーで左翼ポールに当たった本塁打。試合を振り出しに戻した。しかし延長に入ってから追撃が不発。尾上はカーブを主体に切れの良い投球を続け県庁打線をよく抑えていただけに惜しい試合だった。

## 諫早 1 安打で勝利 西海クは好機生かせず

【西海】打安点

⑥石井	3	1	0
⑧土居	3	0	0
②谷山	3	0	0
⑦東	3	2	0
③宮崎	3	0	0
⑤香田	2	0	0
⑨安武	1	0	0
H9小柳	1	0	0
①原田	2	0	0
④岩橋	1	0	0
22 3 0			

【一回戦】 振球犠盗失残

西海クラブ	000 000 0	0	7	1	0	2	1	2	1時間14分
諫早クラブ	000 100 X	1	1	2	2	0	0	1	【二】東、野田

【諫早】打安点

⑨船木	3	0	0
④野田	3	1	0
⑦山口欽	1	0	0
⑥高橋	1	0	1
⑤古川	1	0	0
⑧今畑	2	0	0
③北川	2	0	0
②田中	2	0	0
①宇戸	1	0	0
16 1 1			

【評】諫早のエース43歳のベテラン宇戸は老練な投球で平均年齢25歳の西海クラブを完封し貴重な1点を守り切った。  
諫早は四回に先頭の野田が右翼線二塁打。山口が送って高橋の中犠飛で還った。諫早の安打はこの1本だけ。真っ向から投げ込む原田の重い速球に手が出ず、ほかにはチャンスらしいものはなかった。  
諫早が貴重なチャンスを生かしたのに対し西海クには不注意な攻めが目立った。二回には先頭の東が中越え二塁打しながら三塁を欲張って憤死。四回にも先頭の石井がうまい右前打で出、捕逸で無死三塁の絶好機にも後続が簡単に打って出て凡退。打ち崩せそうに見えながら緩急をうまく織り交ぜコーナーを突く宇戸の術中にはまってしまった。

# 三菱打線、火を噴く 川上、野原 両投手 1安打しか許さず

【一回戦】 振球犠盗失残 1時間29分

三菱重工長崎	201 020 1	6	0	0	2	4	1	6
大村市役所	000 000 0	0	7	2	0	0	4	3

【本】岩崎一  
【三】上内、川上【二】野原、井戸口

【評】三菱重工長崎の打棒が振るった。初回、上内は1球目をいきなり左中間へ三塁打。桜木のうまいスクイズは内野安打となってまず1点(写真)。その後、動揺した大村市役所の2失策に井戸口の安打を絡めて1点を追加した。三回には左翼席に飛び込む岩崎一の大会第2号本塁打。五回にも井戸口と川上の連続長打で2点を追加し5-0と大きくリード。七回には2安打で1点を加えてダメ押しした。また守っても川上、野原両投手が好投し、よく練習を積んだ堅い守備にも支えられて大村市役所に1安打しか許さなかった。



スクイズ成功 1回表無死三塁、三菱重工桜木のスクイズ 決まって三塁から上内がかえり1点先取

この1安打は二回に先頭の津田が放った左越え打。二塁打と思われたが野原の好返球とうまい中継プレーで津田は二塁直前で憤死。二塁打となっていれば願ってもないチャンス。試合の流れが変わったことも予想されるだけに大村にとっては惜しいチャンスを逸した。それを阻んだ三菱重工の好守が光った。

【三菱】打安点

⑧上内	4	1	0
④桜木	4	2	1
⑥岩崎一	4	1	1
②井戸口	3	2	0
①7川上	3	2	3
⑤橋本	4	0	0
⑨榎並	2	0	0
H9大村	1	0	0
③岩崎信	3	0	0
⑦1野原	3	1	0
			31 9 5

【大村】打安点

⑤前川	3	0	0
⑥橋本	3	0	0
①西	3	0	0
②津田	1	1	0
H永尾	1	0	0
⑦徳久	3	0	0
⑧山崎	3	0	0
④高治	2	0	0
⑨塩田	2	0	0
9西孝	0	0	0
③今里	1	0	0
			22 1 0



第2日は午前9時から二回戦4試合が大橋球場であった。朝までパラついた雨もあがり、午後からは青空

が顔を出す絶好の野球日和となった。  
(昭和50年10月19日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

# 諫早、4回に猛攻 美津島 好守に精彩欠く

【二回戦】=第2試合= 振球犠盗失残 1時間28分

諫早クラブ	000 410 2	7	2	9	2	1	2	10
美津島	000 000 0	0	6	0	0	2	0	4

【本】舟木【三】山口、今畑  
【二】今畑 ◇打撃妨害：松本

【諫早】打安点

④野田	4	1	1
⑧8広谷	5	0	0
⑦山口	3	1	0
⑥高橋	2	0	1
⑤古川	2	1	0
⑧3今畑	3	2	1
③北川	1	0	0
H9舟木	1	1	2
②田中	1	0	0
H2佐藤	3	2	2
①宇戸	2	0	0
			27 8 7

【評】諫早は四回、美津島のエース中庭をとらえた。まず先頭の山口は左越えの三塁打、高橋が左犠飛を打ち上げてまず1点。古川の一打は二塁手の前で大きくバウンドし内野安打。続く今畑は左翼フェンスに直接当たる大三塁打で古川を迎え入れ佐藤のスクイズが内野安打となる間に自らもホームを踏んで3点目。さらに代わった宇山の制球難で押し出しの1点を加え諫早は打者10人の猛攻で4-0と大きくリードした。守ってはベテランの宇土が一回戦に続いて健闘、安打3本を打たれながらも要所を締めて得点を許さない。五回には2四球に安打1本で1点。七回にも舟木の中越えランニング本塁打で2点を加え試合を決めた。遠来の対馬は守備にいま一步ピリッとしたところがなかった。中継プレーの拙さから短打を長打にするケースも見られ、エース中庭が急に調子を崩したのも痛かった。

【美津島】打安点

⑤平松	3	1	0
⑥平山	2	0	0
8神宮	1	1	0
③阿比留	2	0	0
①7中庭	3	1	0
⑨吉本	3	0	0
⑧石川	2	0	0
H小田	1	0	0
⑦7吉野	1	0	0
1宇山	1	0	0
H阿比留	1	0	0
②原田	1	0	0
2辻本	2	0	0
④酒井	1	0	0
H4田中	1	0	0
			25 3 0

# 井口、攻守に活躍

【二回戦】=第1試合=

振球犠盗失残

長崎県庁	100 002 0	3	3	6	1	0	2	3
福江ビクトリー	000 010 0	1	4	2	0	1	0	5

1時間34分

【二】井口2、門

【県庁】打安点

④宿輪	2 0 0
⑥浦	2 0 0
⑤井口	3 2 1
③芦塚	2 0 0
⑧3橋	口 2 0 1
⑦原	2 0 0
①山口	2 0 0
⑨田中	2 0 0
②松本	3 0 0

20 2 2

【評】県庁は初回一死後、浦が四球で出、一回戦からよくバットの振られている井口は左翼右を抜く二塁打を放ち一走を返した。さらに1-1と追いつかれて迎えた六回に先頭が四球、浦の投ゴロで二封された後に井口がまたも巧打を見せ左中間を抜いてワンバウンドで外野席に飛び込む二塁打の二三塁に三ゴロ本塁悪送球で2点目。橋口が高々と左犠飛を打ち上げ1点を加えた。結局県庁の安打は井口の2本だけ。一方の福江は門の二塁打を含む4安打を放ち五回には一死後左前打の出口が捕逸で三進。意表を突く本塁を決めて同点に追いついた。しかし攻めにいま一步の決め手を欠き追加点を奪えない。七回には先頭の平山が右中間安打で出塁、絶好の追撃機も後続三人が凡退した。

【福江】打安点

⑧川口	3 0 0
⑤久保	2 0 0
⑥中村	3 1 0
⑦津田	3 0 0
⑧門	3 1 0
①平山	3 1 0
②山内	3 0 0
⑨中里	1 0 0
H橋本	1 0 0
④出口	3 1 0

25 4 0

# 奈良尾ボークに泣く 三菱、辛くも逃げ切る

【二回戦】=第3試合=

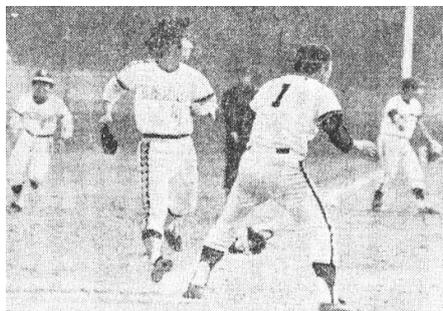
振球犠盗失残 1時間36分

三菱重工長崎	010 010 0	2	3	4	2	1	2	6
奈良尾BBクラブ	000 001 0	1	3	0	0	0	0	4

【三】橋本

【二】上内、川上、森

【評】三菱は二回に先頭の川上が左中間二塁打。金丸のボークで三進し橋本のスクイズで先取した。五回の追加点も金丸のボーク絡み。岩崎信が右前にポテンヒット。野原のバントで一死二塁。奈良尾内野陣が執拗に牽制を試みるうちに金丸が再びボークを犯して三進。四球後に桜木の遊ゴロで岩崎が還り結果的にこれが決勝点となった。金丸は三菱打撃陣に毎回のように安打されながらバックスの好守に盛り立てられ要所を良く締めていただけに悔やみきれないボークだった。



【三菱】打安点

⑧上内	3 2 0
④桜木	4 0 1
⑥岩崎一	1 0 0
②井戸口	2 0 0
①川上	3 1 0
⑤橋本	2 1 1
⑨榎並	3 0 0
③岩崎信	3 1 0
⑦野原	2 1 0

23 6 2

【奈良尾】打安点

⑧森	3 1 0
④金崎	2 0 0
H初村	1 1 0
R4津田孝	0 0 0
⑦出口	3 0 0
①金村	3 1 1
⑨浦口	3 1 0
③平山	3 0 0
⑤津田裕	3 0 0
②宮崎	3 1 0
⑥福見	2 0 0

26 5 1

奈良尾6回裏一死二三塁、金丸の中前打で二塁から森が生還し1点差と迫る

奈良尾は六回先頭の森が右越え二塁打。代打の初村も安打し、出口の投ゴロで一死二三塁に金丸の中前打で二者がホームを突いたが、初村の代走・津田はタッチアウト。惜しい試合だった。

# 効いた先制攻撃 平戸の宮本 有明を2安打完封

【二回戦】=第4試合=

振球犠盗失残 1時間6分

平戸クラブ	200 000 0	2	6	3	0	1	0	2
有明町クラブ	000 000 0	0	1	2	0	0	0	3

【二】正木

松本

【評】平戸の先制攻撃が効いた。先頭の三輪がいきなり死球。江田が三振のあと正木が左中間二塁打し二盗していた三輪がゆっくり生還。二死後早田も三遊間を破って正木を迎え入れ初回到2点を挙げた。

試合はその後立ち直った有明・金子と平戸・宮本の投手戦。早いテンポで直球、カーブを投げ込む金子。シュートを有効に使う宮本の両投手から安打を奪えない。追撃する有明は四回一死後に吉田正が内野安打に出たが盗塁を焦って刺殺。

七回の平戸は先頭の早田が中前打。追加点のチャンスも捕手牽制球に追い出されてアウト。その裏の有明は二死後に松本が左越え二塁打で追撃の構えを見せたが、高見は遊ゴロに倒れて万事休した。

【平戸】打安点

④三輪	1 0 0
②江田	3 0 0
⑥正木	3 1 1
⑤新地	3 0 0
③早田	3 2 1
⑧石田	2 0 0
⑨木山	3 0 0
⑦江湖	2 0 0
①宮本	2 0 0

22 3 2

【有明】打安点

⑦吉田浩	3 0 0
④2吉田正	3 0 0
⑤竹之内	3 0 0
⑧吉田富	3 1 0
⑥松本	3 1 0
③高見	2 0 0
①金子	1 0 0
②柴田	1 0 0
H長野	1 0 0
4安野	0 0 0
⑨酒井	2 0 0

22 2 0



## 追加点!

平戸ク1回表二死二塁、早田の痛烈な三遊間安打で、二塁から正木がホームインし2点目

効いた先制攻撃

大会最終日の19日は午前9時から準決勝第1試合が開始。昨年度優勝の長崎県庁に対し諫早クラブが延長9回の末、敵失により得た好機に木塚の二塁打で決勝点を挙げ、ベテラン宇戸の踏ん張りで逃げ切った。第2試合は試合運びに勝る三菱重工長崎が得意のかき回し戦法で平戸クラブ守備陣のミスを誘い2点リードし、継投により平戸打線を1安打に封じた。決勝戦は12時50分に開始し三菱打線と諫早エースの宇戸の対決

が興味をひいた。しかし宇戸は4連投の疲れか、これまでの球威がなく三菱打線に橋本の本塁打を含む長短8安打を打たれて3点を献上。逆に諫早打線は三菱の川上にわずか2安打と抑えられた。閉会式では優勝旗と準優勝旗が贈られ、個人賞は殊勲選手に三菱の橋本三塁手。優秀投手に三菱の川上。敢闘賞には諫早の宇戸投手が選ばれ表彰された。

(昭和50年10月20日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

## 県庁、無死満塁逃がす 延長9回 宇戸、1点差を守る

【諫 早】打安点

⑨ 舟 木	4	1	0
⑤ 野 田	2	0	0
7 古 川	1	0	0
⑦ 山 口	4	0	0
⑥ 高 橋	3	1	0
③ 今 畑	4	0	0
④ 木 塚	3	1	1
② 佐 藤	4	0	0
① 宇 戸	3	1	0
⑧ 広 谷	3	0	0
31 4 1			

【準決勝】 (延長9回) 振球犠盗失残

諫 早 ク ラ ブ	000	000	001	1	4	3	0	2	0	6
長 崎 県 庁	000	000	000	0	5	3	2	2	2	5

1時間55分 【三】井口、木塚

【県 庁】打安点

⑧ 橋 口	4	0	0
④ 宿 輪	3	0	0
⑤ 井 口	4	1	0
③ 芦 塚	3	0	0
⑦ 原	1	0	0
H 高比良	1	0	0
① 川 野	3	0	0
⑨ 田 中	2	0	0
H9 山 口	1	0	0
② 松 本	3	1	0
⑥ 浦	2	0	0
27 2 0			

【評】ベテラン宇戸は巧みな投球で県庁打線を2安打に完封し、諫早が昨年度優勝の長崎県庁を下した。試合は宇戸と県庁・川野の投げ合いで両チーム無得点のまま延長戦へ。諫早は九回二死から今畑の強い三ゴロを井口が弾いて一塁へ悪送。続く木塚の左中間突破二塁打で決勝点を挙げた。一方の県庁打線は五回まで無安打。六回の内野安打も後続なく、七回先頭の井口が痛烈な左越え二塁打、芦塚のバントが野選。原は四球で無死満塁。またとないサヨナラのケースも後続の3人が打って出て何れも宇戸に抑えられてしまった。それにしても宇戸の健闘は立派。緩急織り交ぜて制球力良くコーナーを突き、内角シュート、外角に逃げるカーブを巧みに投げ分けてベテランらしい味のある投球を見せた。

## 決勝の2点拾う

平戸に痛い悪送球

【評】両チーム合わせて3安打の投手戦。試合巧者の三菱が少ないチャンスにソツのない攻めで2点を奪い、堅実な守備で逃げ切った。

三菱は二回に先頭の川上が四球。橋本は手堅くバント。これを拾った平戸の宮本は二塁へ送球したが間にあわず野選。続く榎ももうまいバントを見せて内野安打の無死満塁。岩崎が浅い左飛のあと野原がスクイズ。宮本の一塁悪送球を誘って二者がホームインした。

その裏の平戸は先頭の新地が三遊間を破って反撃到来。しかし早田の痛烈な二遊間のゴロは桜木のうまいプレーで一瞬にして併殺。その後の平戸は野原の伸びのある球を打てずに六回まで三人ずつの攻撃。七回に代わった川上にも三者凡退に抑えられてしまった。

【準決勝】 1時間5分 振球犠盗失残

三菱重工長崎	020	000	0	2	1	3	3	0	0	2
平戸クラブ	000	000	0	0	5	1	0	0	2	0

【三 菱】打安点

⑧ 上 内	2	0	0
④ 桜 木	2	0	0
⑥ 岩崎一	3	0	0
② 井戸口	2	0	0
⑦1 川 上	2	0	0
⑤ 橋 本	2	0	0
⑨ 榎 並	3	1	0
③ 岩崎信	2	1	0
①7 野 原	1	0	1
19 2 1			

【平 戸】打安点

④ 三 輪	2	0	0
H 大 畑	1	0	0
② 江 田	3	0	0
⑥ 正 木	2	0	0
H 桑山博	1	0	0
⑤ 新 地	2	1	0
③ 早 田	2	0	0
⑧ 石 田	2	0	0
⑦ 吉 浦	1	0	0
⑨ 江 湖	1	0	0
H9 木 山	1	0	0
① 宮 本	1	0	0
20 1 0			

### 昭和50年の全国大会での戦績

天皇賜杯第30回全日本軟式野球大会【52チーム】

(8.18～・東京都八王子市ほか)

- 【一】 親和銀行 4-1 東芝府中工場(開催地)
- 【二】 " 1-0 金沢電話局(石川)
- 【三】 " 2-1 三洋電機洲本(兵庫)
- 【準々】 " 0-4 日本鉱業水島(岡山)

第30回三重国体【28チーム】10.27～

- 【一】 親和銀行 3-4 新町役場(群馬)

常陸宮賜杯第11回全日本準硬式 (6.1～・和歌山県)

- 【一】 西海クラブ 1-3 三菱金属秋田(秋田)

高松宮賜杯第19回全日本(千葉県)

【16チーム×2】は不出場

# 栄冠 三菱重工に輝く 諫早、川上を打てず 橋本一発、宇戸力つきる

【決勝】 1時間38分 振球犠盗失残

三菱重工長崎	010 000 200	2	4	2	0	2	0	6
諫早クラブ	000 000 000	0	3	1	0	0	1	3

【本】橋本 【三】橋本  
【二】田中、野原、川上

【三菱】打安点

⑧上内	4	1	0
④桜木	3	1	0
⑥岩崎一	4	0	0
②井戸口	3	0	0
①川上	4	1	0
⑤橋本	4	2	2
⑨榎並	4	1	0
③楠本	4	1	0
⑦野原	4	1	0
			34 8 2

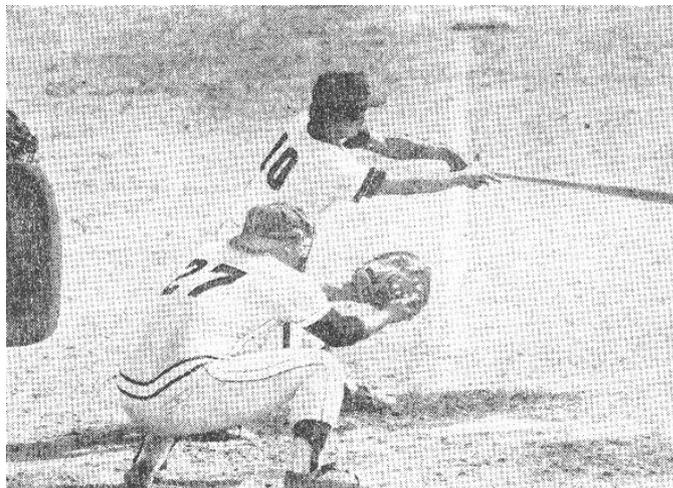
【諫早】打安点

⑨舟木	4	0	0
⑤古川	4	1	0
⑦山口	4	0	0
⑥高橋	3	0	0
③今畑	3	0	0
④木塚	3	0	0
②田中	3	1	0
①宇戸	3	0	0
⑧広谷	1	0	0
H8北川	1	0	0
			29 2 0

【評】三菱打線と諫早のエース宇戸の対決。興味ある顔合わせとなった決勝戦も二回に三菱の橋本が大会第3号本塁打を放って先制した。七回にも4連投の疲れが出た宇戸を攻め4長短打で2点を追加。守っては川上を盛り立てて諫早の反撃を許さなかった。

橋本の打った球はスピードを殺して肩口から入るカーブ。鋭くミートすると打球は高く上がって左翼席へ飛び込んだ。宇戸はこの一球で気を引き締めたのか後続を3人で打ち取り、三、四回も三者凡退と相変わらず巧い投球を見せた。しかし4連投の疲れは隠せず後半やや球速が落ち、七回につかまってしまった。この回の三菱は先頭の川上が左越え二塁打。先制本塁打で気をよくしている橋本は左中間を破る三塁打で加点し、諫早守備陣の中継がもたつく間にホームへ走り込んだ。

諫早打線は一、二回こそ1安打ずつ出たものの三回以降は落ちる球を有効に使う川上に沈黙。三菱守備陣の堅い守りにも阻まれてチャンスをつかめなかった。



先制本塁打 2回表、三菱の先頭、橋本は左翼席へ大会第3号の先制本塁打(捕手・田中)



優勝旗を手にダイヤモンドを一周する三菱重工長崎ナイン



## 第27回県民体育祭・軟式野球競技 (11.9～・佐世保)

